

令和7年度自己評価 及び 学校関係者評価書

令和8年（2026年）3月

1 学校課題「一人一人の子どもを生かす教育の創造 ～温かい教育・気付かせる教育～」

2 本年度の重点目標

- 重点①豊かな心の育成
- 重点②学ぶ力の育成
- 重点③健やかな体の育成
- 重点④信頼される学校の創造

3 本年度の経営方針

- (1) 教育活動の深化と充実を図る
- (2) 密度の濃い教育実践の展開をめざす
- (3) 学校文化の創造に努める

4 自己評価結果に対する学校関係者評価

(次ページ以降を御参照ください。)

札幌市立東苗穂小学校 学校関係者評価委員
小林 和裕 様(東苗穂小学校父母と先生の会 会長)
村木 香菜子 様(東苗穂児童会館 館長)
菅原 豊和 様(元 東苗穂小学校父母と先生の会 会長)
花香 美千留 様(あゆみ第二幼稚園園長)

重点	評価項目		4段階中の肯定的回答(%)		自己評価		学校関係者評価	
			児童	保護者	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点①豊かな心の育成	道徳	①	96	97	A	道徳の教科化に合わせ、本校では9年前より道徳の研究にも力を入れてきた。児童も保護者も、道徳の時間を中心として道徳性を身に付けているとの認識がある。また、今年度から参観日には全クラス道徳の授業を公開した。この取組を継続していく。	A	A
	挨拶	②	89	97	A	昨年度から小中一貫した取組により、札苗中ブロックは足並みを揃えて挨拶に力を入れてきた。その成果が出て昨年度から高評価になった。また、今年度から委員会活動の挨拶習慣を年2回に増やした。子どもたちの挨拶の習慣が身に付いてきたと考える。これに慢心することなく取り組みを強化していく。	A	A
	心の居場所	③	82	91	B	昨年から比べて一番大きな成果がこの項目である。行事ごとに他学年を認め合う交流や学習発表会ではハートフルツリーなど保護者からも認めてもらう取組が成果として出た形になった。日頃から取り組んでいるグリーンカードや担任の授業での子どもたちへの声掛けが温かな雰囲気作りになっている。また、授業中では言葉遣いや、～さんづけの意識を始めた。少しずつではあるが定着してきた。	A	A
	朝読書	④	56	66	C	例年と同様、肯定的な回答は大変低い。読書習慣が身に付いたとは言い難い状況である。学校では休み時間にクロムブックを使わないことを昨年に続き継続して指導をした。体を動かして遊ぶ子どもは増えたものの、読書へと向かう子は少ない。朝読書を活性化する工夫が必要である。今年は担任外や担任交読み聞かせなど取り組んできた。来年度どのように反映されるか注視したい。	A	A
	いじめ防止対策	⑤			A	道徳教育や各教科の学習、学級活動など教育活動全体を通して、子どもがいじめの理解を深められるように努めた。いじめ防止対策委員会やアンケートを通して、いじめの認知とともに速やかな組織対応ができるよう引き続き取り組んでいきたい	A	A
<<学校関係者評価委員による意見>> 児童会館の日常でも、児童が互いの良さを伝え合う様子が見られ、小学校の取組による心の成長が感じられます。								

重点	評価項目		4段階中の肯定的回答(%)		自己評価		学校関係者評価	
			児童	保護者	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点②学ぶ力の育成	授業	⑤	93	85	A	子ども・保護者共に微増の結果となった。学ぶ力育成部を中心に「分かる・できる授業」を全学年共通で強化した結果であると考え。更に向上するために共同研究を強化していく。	A	A
	言語活動 問題解決学習	⑥	87	87	B	学力テストの結果を見ても、本校の子どもは「知識・技能」を活用する「思考・判断・表現」の分野に特に弱さがある。その改善のためには、日頃から課題解決的な学習を積み重ねていく必要がある。今後も「子ども発・学び合い・子ども着」をキーワードとして授業研究を続け、新学習指導要領にある「対話的な学び」を通して学力を向上させていく。	A	A
	基礎基本	⑦	90	88	B	微減になった。今年からロッキー授業が無くなった影響が考えられる。これに代わる取組が求められる。学びのサポートさんが算数を中心に個別に関わってくださっている。今後も、基礎基本の定着のために担任外も個別の関わりを増やすことを目指す。	A	A
	学習習慣	⑧	80	76	C	子どもからの評価が昨年度に比べ、かなり上昇した項目である。日々の宿題を通して家庭で学習する習慣が身に付いてきたものと思われる。ただ、保護者の評価が昨年度から低いままなので、風の子カードを提出させていた頃より家庭学習の習慣が身に付いていないと判断されたものと思われる。今後も学校便りなどで発信していくことで、家庭が主体となった家庭学習の推進を図る。	A	A
<p>《学校関係者評価委員による意見》</p> <p>下校後、すぐに宿題に取り組む児童の割合が増えつつあり、御家庭でも1日の過ごし方について、しっかりと約束されていると思います。御家庭で学習内容やつまずきなど、御確認いただけるとよいですね。</p>								

重点	評価項目		4段階中の肯定的回答(%)		自己評価		学校関係者評価	
			児童	保護者	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点③ 健やかな体の育成	運動習慣	⑨	80	88	B	微増となった。今年度は体育専科の教員が配置されたことにより、休み時間や運動週間のときに専科教員と児童と一緒に運動している光景を見かけた。運動会、鉄棒週間、跳び箱週間、マット週間など、様々な運動の機会を引き続き設定することができた。冬季は風の子ルームや視聴覚室にも運動機会が増やせるように器具を設置した。マンネリ化しない取り組みを検討中。	A	A
	体力テスト	⑩	81	89	B	こちらも微増の結果になった。毎年の自分の体力の変化を数値化して比べることに喜びをもっているようだ。また、9月の懇談で渡す体力テストの結果は保護者の方も楽しみしている様子が見受けられる。この取組を継続していく。	A	A
	健康保持増進	⑪	85	88	B	養護教員が手洗い指導や性教育を継続して実施している。命を大切にするための指導などと合わせ、今後も新しい生活様式に合わせた保健指導や食指導を続けていく。	A	A
	太陽農園	⑫	77	98	B	保護者評価も高く、本校の特色である「太陽農園」。今年度も6年生が行った野菜の栽培・販売の学習により、子ども自らが考える学習活動が展開された。「保護者アンケート」でも肯定的回答が高止まりしていることから、次年度も継続していく。さらに今年は畝づくりなど子どもたちが自分たちで考え、活動したこともあり、主体的な活動になってきた。	A	A
<p>《学校関係者評価委員による意見》 体力テストの結果を励みにしている児童が多いことが伺えます。 多様な運動機会の提供と工夫をありがとうございます。</p>								

重点	評価項目		4段階中の肯定的回答(%)		自己評価		学校関係者評価	
			児童	保護者	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点④信頼される学校の創造	児童理解 参観・懇談	⑬	89	91	A	微増の結果になった。希望懇談では学年ごとに希望する保護者の人数にばらつきが見られた。担任が持ち上がりの学年では希望者が少ない傾向が見られた。これは保護者の安心感と関係していると思われる。参観懇談では担任が子どもたちの普段の様子の写真や動画を用意していた。学校での様子が伝わるので継続していきたい。	A	A
	風の子活動	⑭	84	91	B	児童の評価が8ポイント上昇した。遠足が9月になり、風の子活動の準備時間を十分に確保できたのが要因と考えられる。小規模校ならではの取組なので活動を充実させていきたい。	A	A
	避難訓練 引き取り訓練	⑮	98	98	A	昨年度に引き続き高い評価をいただいた。ミサイル発射やクマ出没等、社会情勢に合わせ訓練内容が多様化している。今後も毎年内容や方法を見直しながら取り組む。	A	A
	開かれた学校	⑯		96	A	昨年度に引き続き高い評価を得た。学校便り、PTA活動、幼稚園との交流に対する評価と考えられる。学校便りでは、今後もその時に必要な情報を分かりやすく伝えることを重視していく。	A	A
≪学校関係者評価委員による意見≫ 安全対策などについて、速やかな対応と必要に応じた情報共有ありがとうございました。								